

茨城県の経済動向（茨城経済四期報 平成21年1月～3月）

～本県経済は、引き続き悪化している～

この茨城経済四期報は、茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し、これまで県等で公表された当該分野の各主要経済指標の数値変動をもとに、本県における最近の経済状況をマクロ的視点から、限られた統計データ分析範囲の中で、概観的にまとめたものです。

概況

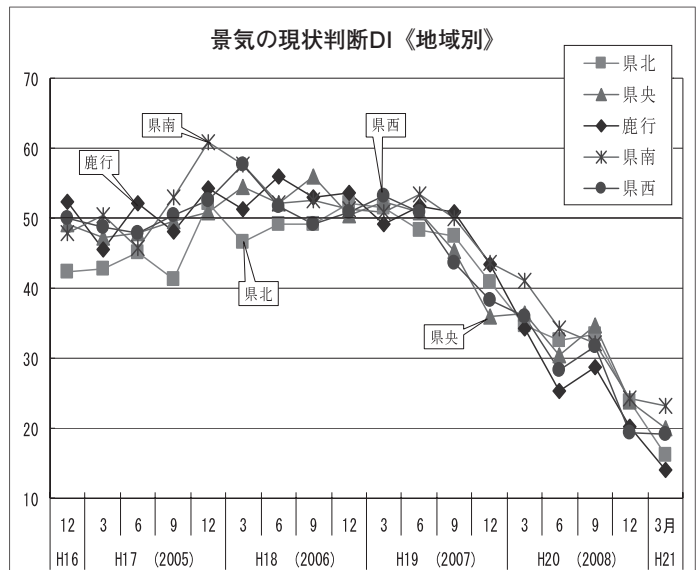
本県の最近の経済動向をみると、生産活動は大幅に減少している。消費は弱い動きで推移している。住宅投資は低調であり、公共投資は前年度水準で推移している。民間設備投資は、20年度下期は減少見込みとなっている。雇用・労働は求人数の減少と求職者数の大幅増加が続いている。景気ウォッチャー調査による景況感は、家計動向関連DI、企業関連DI、雇用関連DIがいずれも横ばいを表す50を大幅に下回っている。景気動向指数（CI）一致指数は、3か月後方移動平均で依然後退局面で推移している。県民経済計算四半期速報による県内総生産の実質経済成長率（10～12月期）は、3期連続のマイナスとなっている。

景況等

- ・景気ウォッチャー調査3月実施の現状判断DIは、前期（12月調査）比3.8ポイント低下して18.5となり、平成14年12月の調査開始以来の最低値を2期連続で更新し、横ばいを表す50を7期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI、企業動向関連DI及び雇用関連DIはいずれも前期比で下回り、調査開始以来の最低値となった。
- ・景気動向指数（CI：平成17年=100）3月の一致指数は70.9となり、前月比0.3%と僅かに上昇したが、3か月後方移動平均値でみると、依然後退局面で推移している。  
 〈※国の景気動向指数(CI)3月の一致指数は85.1となり、前月比-0.1%と8か月連続で低下している。〉
- ・県民経済計算四半期速報（平成20年10～12月期）の県内総生産（支出側）実質経済成長率は、前期比-2.2%（年率換算-8.7%）となり、3期連続のマイナスとなっている。  
 〈※国の実質経済成長率（平成20年10～12月期）は、-3.8%と3期連続マイナスとなっている。〉

地域別：現状判断DI

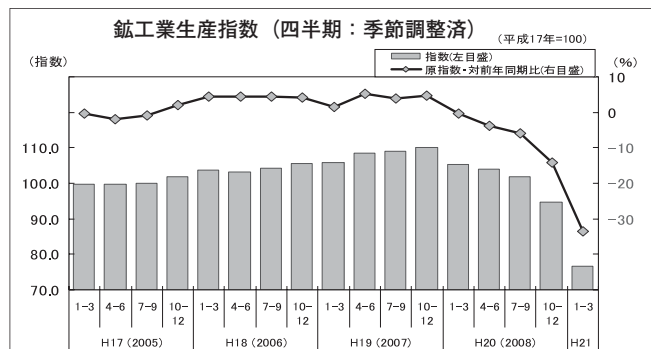
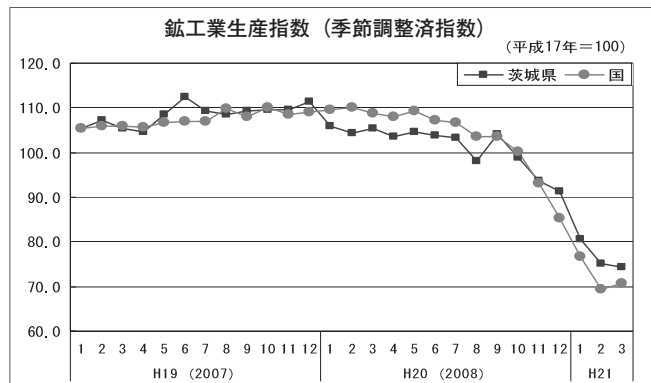
年	月	県全体	県北	県央	鹿行	県南	県西
H16	12	48.3	42.4	49.1	52.3	47.8	50.0
H17 (2005)	3	46.9	42.8	47.3	45.5	50.4	48.6
	6	47.7	45.2	47.8	52.1	45.7	47.8
	9	48.5	41.2	49.6	48.1	53.0	50.5
	12	54.1	52.2	50.9	54.3	60.8	52.5
H18 (2006)	3	53.1	46.6	54.5	51.3	57.6	57.6
	6	52.2	49.2	52.2	55.9	52.1	51.7
	9	52.0	49.1	56.0	53.1	52.6	49.1
H19 (2007)	12	51.7	52.2	50.4	53.6	51.3	50.9
	3	51.3	51.4	52.3	49.1	50.9	53.1
	6	51.0	48.2	50.9	51.7	53.5	50.9
	9	47.4	47.5	45.3	50.8	50.0	43.6
H20 (2008)	12	40.4	40.9	35.9	43.3	43.6	38.3
	3	36.5	34.6	36.4	34.3	41.1	36.0
	6	30.2	32.5	30.5	25.4	34.2	28.4
	9	32.2	33.5	34.6	28.6	32.1	31.7
H21	12	22.3	23.7	23.7	20.3	24.2	19.4
	3	18.5	16.2	20.1	14.0	23.2	19.1
前回差(ポイント)		▲3.8	▲7.5	▲3.6	▲6.3	▲1.0	▲0.3



資料出所：県統計課  
 （※県内5地域ごとに60名、計300名を対象にした景気ウォッチャー調査）

生産活動 ……大幅に減少

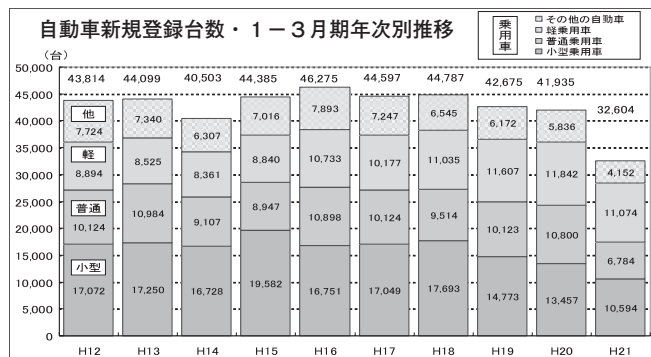
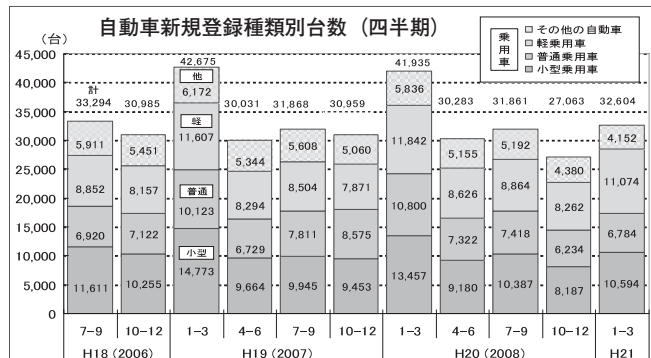
- ・ 鉱工業生産指数（平成17年=100）3月は74.3（季調済）で前月比-1.2%と6か月連続で低下し、前年同月比（原指数）では-28.7%となり、13か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると1～3月期は、前年同期比（原指数）で-33.6%と、5期連続で前年水準を下回った。（※全国の鉱工業生産指数3月は70.6（季調済）で前月比1.6%と6か月ぶりに上昇した。原指数では前年同月比-34.2%となっている。四半期ベースでは前年同期比-34.2%と3期連続で前年水準を下回った。）
- ・ 大口電力使用量3月は、前年同月比-30.7%と5か月連続で前年水準を下回った。四半期ベース1～3月期では前年同期比-28.2%となり、2期連続で前年水準を下回った。



資料出所：県統計課  
（※県内266の鉱工業製品の生産活動を毎月指数化）

消費 ……弱い動き

- ・ 大型小売店販売額3月は、前年同月比-2.4%と7か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると1～3月期は、前年同期比-2.5%と2期連続で前年水準を下回った。百貨店販売額3月は前年同月比-14.0%と5か月連続前年水準を下回り、スーパー販売額3月は前年同月比0.8%と4か月ぶりに前年水準を上回った。既存店ベースで見ると、大型小売店販売額3月は、前年同月比-6.6%と12か月連続で前年水準を下回った。  
〈※全国の大型小売店販売額3月は、前年同月比-6.7%と8か月連続で前年水準を下回った。〉
- ・ 自動車新規登録台数3月は13,663台で、前年同月比-22.5%と8か月連続で前年水準を下回った。貨物車・特殊車を除いた乗用車を前年同月比で見ると、軽乗用車は-4.0%、小型乗用車（2000cc以下）は-11.7%、普通乗用車（2000cc超）は-29.7%となった。四半期ベースで見ると1～3月期は、前年同期比-22.3%と3期連続で前年水準を下回った。
- ・ 二人以上世帯の勤労者世帯消費支出3月（水戸市）は、前年同月比-7.6%と9か月連続で前年水準を下回った。  
〈※全国の勤労者消費支出3月は、前年同月比0.5%と4か月ぶりに前年水準を上回った。〉



資料出所：茨城県自動車販売店協会

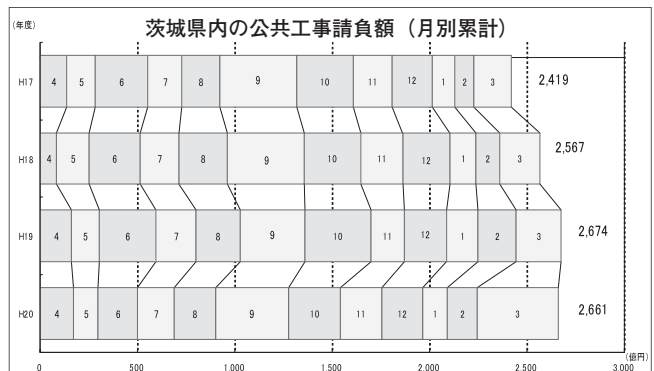
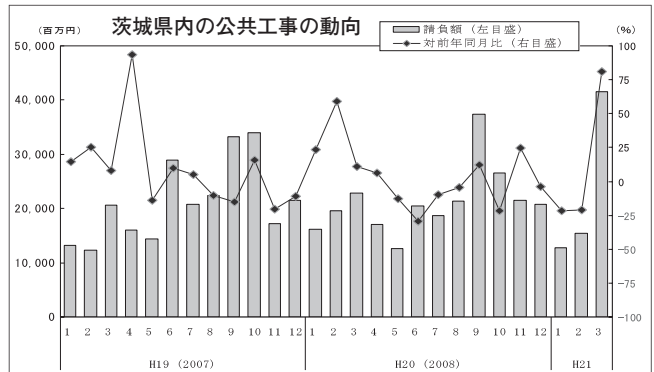
## ■調査から

### 民間設備投資 ……20年度下期は減少見込み

- 法人企業景気予測調査1～3月期調査では、20年度下期の設備投資計画額は、全産業で前年同期比-7.0%の減少見込みとなっている。20年度通期は、全産業で前年比2.7%の増加見込みとなっている。21年度通期の設備投資計画額は、前年比-31.4%の減少見通しとなっている。

### 建設投資 ……住宅投資は低調、公共投資は前年水準で推移

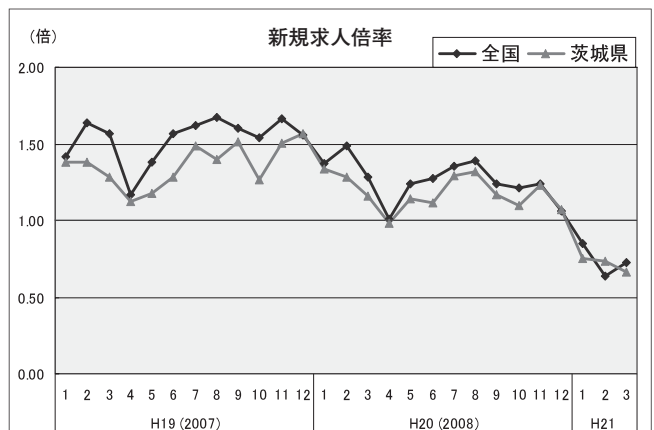
- 新設住宅着工戸数3月は1,225戸・前年同月比-8.6%と3か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると1～3月期は、前年同期比-22.2%と2期連続で前年水準を下回った。〈※全国の新設住宅着工戸数3月は、前年同月比-20.8%と4か月連続で前年度水準を下回った。〉
- 公共工事請負額3月は、独立行政法人等の請負金額が大幅に増加したため前年同月比81.2%と4か月ぶりに前年水準を上回り、四半期（1～3月）ベースでも前年同期比18.8%と2期ぶりに前年水準を上回った。20年度累計（4～3月）では、-0.5%とほぼ前年度水準で推移した。



資料出所：茨城県内の公共工事の動向  
(東日本建設業保証(株)茨城支店)

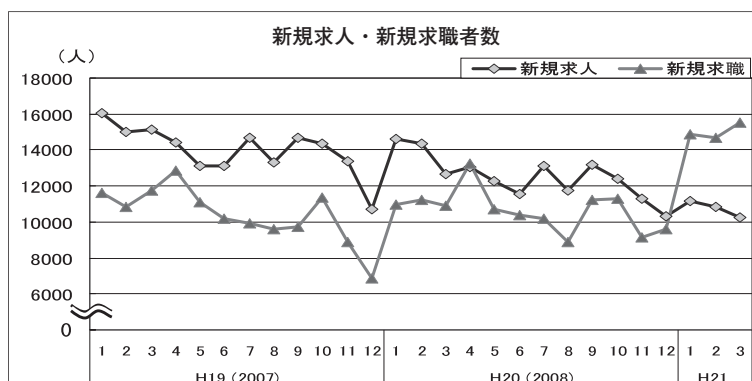
### 雇用・労働 ……求人数の減少と求職者数の大幅な増加が続く

- 新規求人数3月は、前年同月比-19.1%と20か月連続で減少し、新規求職者数3月は前年同月比42.2%と大幅な増加となった。新規求人倍率(原数値)は0.66倍と3か月連続1倍割れで推移している。
- 雇用保険受給者実人員3月は14,423人で、前年同月比75.9%と4か月連続増加となっている。
- 常用労働者の現金給与総額(事業所規模30人以上)2月は、対前年同月比-5.5%と3か月連続で前年水準を下回った。きまって支給する給与(事業所規模30人以上)は、対前年同月比-6.0%と2か月連続で前年水準を下回った。



○新規求人倍率（新規学卒を除きパートを含む）

年	月	新規求人倍率		茨城県		
		全国	茨城県	新規求人数(人)	新規求職者(人)	
H19 (2007)	4	1.17	1.12	14,449	12,858	
	5	1.38	1.18	13,129	11,116	
	6	1.57	1.29	13,138	10,214	
	7	1.62	1.48	14,706	9,915	
	8	1.67	1.39	13,342	9,569	
	9	1.60	1.51	14,685	9,716	
	10	1.54	1.26	14,350	11,352	
	11	1.66	1.50	13,386	8,901	
	12	1.56	1.57	10,734	6,855	
	H20 (2008)	1	1.37	1.33	14,635	10,965
		2	1.49	1.28	14,374	11,219
		3	1.28	1.16	12,665	10,907
4		1.01	0.98	13,054	13,262	
5		1.24	1.14	12,240	10,738	
6		1.27	1.11	11,533	10,382	
7		1.35	1.29	13,121	10,165	
8		1.39	1.32	11,761	8,908	
9		1.24	1.17	13,181	11,242	
10		1.21	1.10	12,404	11,321	
11		1.24	1.23	11,262	9,167	
12		1.06	1.07	10,294	9,631	
H21 (2009)	1	0.85	0.75	11,168	14,861	
	2	0.64	0.74	10,805	14,680	
	3	0.73	0.66	10,240	15,514	



資料出所：厚生労働省一般職業紹介状況「月報」及び茨城労働局職業安定部「職業安定業務月報」

前回（平成20年10～12月）の茨城県の経済動向概況  
本県経済は、急速に悪化している。

※ 参考：最近の国内経済の動向  
（内閣府「月例経済報告」平成21年5月25日）

総論（我が国経済の基調判断）

景気は、厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになっている。

- ・ 輸出、生産は、下げ止まりつつある。
- ・ 企業収益は、極めて大幅に減少している。設備投資は、減少している。
- ・ 雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
- ・ 個人消費は、緩やかに減少している。

先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、対外経済環境における改善の動きや在庫調整圧力の低下、経済対策の効果が景気を下支えすることが期待される。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念など、景気をさらに下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。